



NISSAY
ASSET MANAGEMENT

ニッセイSDGsインカムファンド (資産成長型・為替ヘッジあり) / (資産成長型・為替ヘッジなし)

追加型投信 / 海外 / 債券

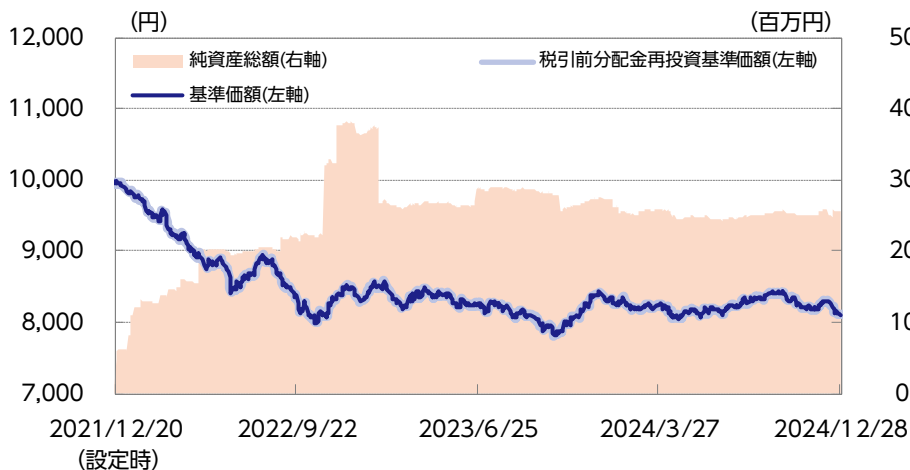


マンスリーレポート

2024年12月末現在

運用実績 為替ヘッジあり

基準価額・純資産の推移



基準価額および純資産総額

基準価額	8,104円
前月末比	-148円
純資産総額	25百万円

分配の推移 (1万口当り、税引前)

期	年月	金額
第1期	2022年03月	0円
第2期	2023年03月	0円
第3期	2024年03月	0円
第4期	2025年03月	-
第5期	2026年03月	-
第6期	2027年03月	-
第7期	2028年03月	-
直近1年間累計		0円
設定来累計額		0円

基準価額の騰落率 (税引前分配金再投資)

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	-1.8%	-3.7%	-0.7%	-3.7%	-18.4%	-19.0%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※基準価額は信託報酬控除後のものです。税引前分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。なお、信託報酬率は「手続・手数料等」の「ファンドの費用」をご覧ください。

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。分配金は信託財産から支払いますので、基準価額が下がる要因となります。収益分配金には普通分配金に対して所得税および地方税がかかります(個人受益者の場合)。

※ファンド騰落率は分配金(税引前)を再投資したものと計算しており、実際の投資家利回りと異なります。

※基準価額の前月末比は、決算日到来月に分配金支払実績がある場合、分配金込みで算出しています。

組入比率

ニッセイSDGs北米クレジットマザーファンド	69.0%
ニッセイSDGs欧州クレジットマザーファンド	33.9%
短期金融資産等	-2.9%

※対純資産総額比

ポートフォリオの概要 為替ヘッジあり

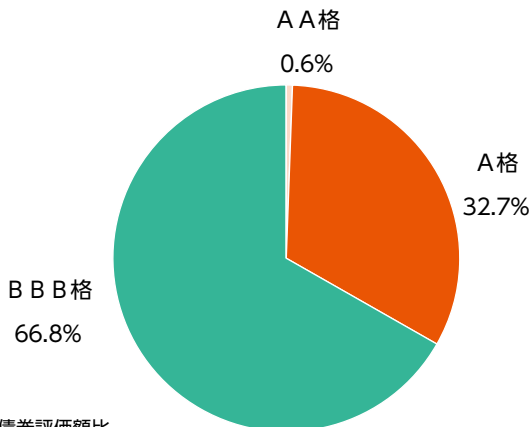
以下の情報は、ファンドが投資対象とする「ニッセイSDGs北米クレジットマザーファンド」および「ニッセイSDGs欧州クレジットマザーファンド」の作成基準日時点における組入比率で加重したものです。

ポートフォリオ情報

平均格付	※1	BBB+
平均修正デュレーション	※2	6.56年
平均最終利回り（①）	※3	4.75%
銘柄数		93
為替ヘッジコスト（②）	※4	4.27%
為替ヘッジコスト控除後 平均最終利回り（①-②）		0.48%
【ご参考】 ロールダウン効果		
ロールダウン効果（推計値）	※5	0.38%

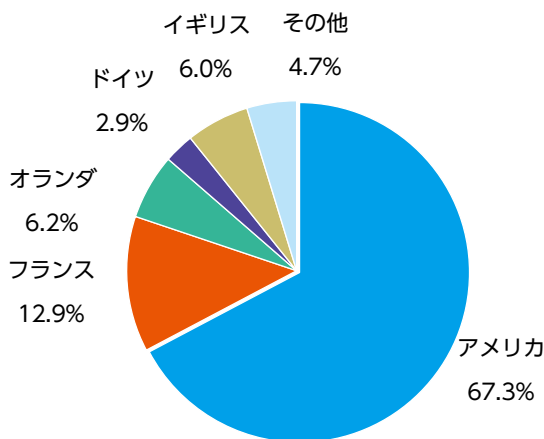
- ※1 格付は、ムーディーズ、S&Pのうち、上位の格付を採用しております。以下同じです。また平均格付とは、各マザーファンドが組み入れている債券にかかる格付を加重平均したものであり、当ファンドにかかる格付ではありません。
- ※2 「デュレーション」＝債券投資におけるリスク度合いを表す指標の一つで、金利変動に対する債券価格の反応の大きさ（リスクの大きさ）を表し、デュレーションが長いほど債券価格の反応は大きくなります。
- ※3 「最終利回り」＝満期までの保有を前提とすると、債券の購入日から償還日までに入ってくる受取利息や償還差損益（額面と購入価額の差）等の合計額が投資元本に対して1年当たりどれくらいになるかを表す指標です。
- ※4 為替ヘッジコストは、1ヵ月物フォワードレート等を用いて計算した想定値（年率換算）であり、実際のファンドの為替ヘッジコストとは異なります。マイナスの場合にはヘッジプレミアムとなります。ブルームバーグのデータをもとに、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。
- ※5 債券は、一般的に償還までの期間が長いほど不確実性が高まるため利回りが高い傾向にあります（順イールド）。そのため、時間が経過し償還までの期間が短くなるとともに利回りが下がり、債券価格が上昇する現象が起きます。これが「ロールダウン効果」と呼ばれるものです。ロールダウン効果（推計値）は、ブルームバーグ米国債トータルリターン・インデックス、ブルームバーグ汎欧州総合社債トータルリターン・インデックスに作成基準日時点における各マザーファンドの組入比率で投資したとの仮定のもとに当社が算出した推計値であり、実際の債券価格や当ファンドの取引を示したものではありません。また、売却時の手数料や税金等は考慮していません。市場が予期しない値動きをした場合等には、ロールダウン効果がパフォーマンスの悪化要因になることがあります。イールドカーブは、右肩下がり（逆イールド）となることがあり、その場合、ロールダウン効果は得られず時間の経過とともに債券価格が下落し、値下がり損が発生します。ブルームバーグ各種インデックスはブルームバーグが公表しているインデックスです。ブルームバーグは、ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーの商標およびサービスマークです。ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーおよびその関係会社（以下「ブルームバーグ」と総称します）またはブルームバーグのライセンサーは、ブルームバーグ・インデックスに対する一切の独占的権利を有しています。

格付分布



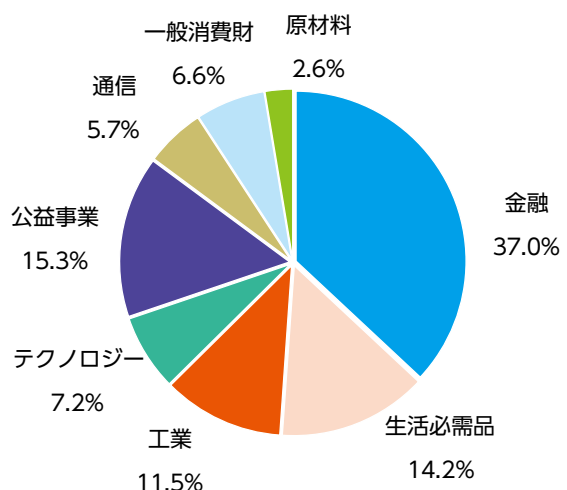
※対組入債券評価額比

国・地域別構成比率



※国・地域はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。
※対組入債券評価額比

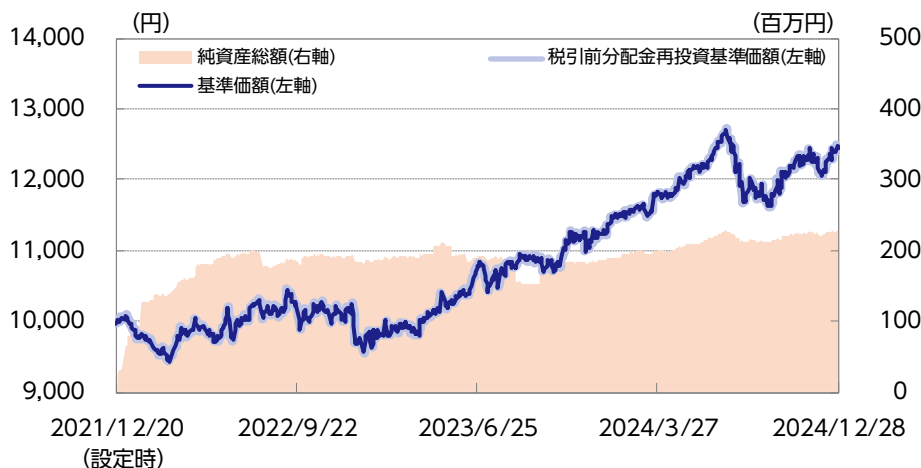
業種別構成比率



※業種はブルームバーグ業種分類（BICS）によるものです。
※対組入債券評価額比

運用実績 為替ヘッジなし

基準価額・純資産の推移



基準価額および純資産総額

基準価額	12,459円
前月末比	363円
純資産総額	227百万円

分配の推移（1万口当り、税引前）

第1期	2022年03月	0円
第2期	2023年03月	0円
第3期	2024年03月	0円
第4期	2025年03月	—
第5期	2026年03月	—
第6期	2027年03月	—
第7期	2028年03月	—
直近1年間累計		0円
設定来累計額		0円

基準価額の騰落率（税引前分配金再投資）

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	3.0%	5.6%	-0.6%	11.0%	24.1%	24.6%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※基準価額は信託報酬控除後のものです。税引前分配金再投資基準価額は分配金（税引前）を再投資したものと計算しております。なお、信託報酬率は「手続・手数料等」の「ファンドの費用」をご覧ください。

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。分配金は信託財産から支払いますので、基準価額が下がる要因となります。収益分配金には普通分配金に対して所得税および地方税がかかります（個人受益者の場合）。

※ファンド騰落率は分配金（税引前）を再投資したものと計算しており、実際の投資家利回りとは異なります。

※基準価額の前月末比は、決算日到来月に分配金支払実績がある場合、分配金込みで算出しています。

組入比率

ニッセイSDGs北米クレジットマザーファンド	67.1%
ニッセイSDGs欧州クレジットマザーファンド	32.9%
短期金融資産等	- 0.0%

※対純資産総額比

ポートフォリオの概要 為替ヘッジなし

以下の情報は、ファンドが投資対象とする「ニッセイSDGs北米クレジットマザーファンド」および「ニッセイSDGs欧州クレジットマザーファンド」の作成基準日時点における組入比率で加重したものです。

ポートフォリオ情報

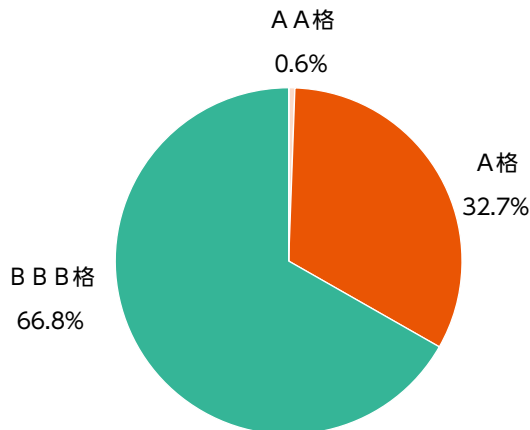
平均格付	※1	B B B +
平均修正デュレーション	※2	6.56年
平均最終利回り (①)	※3	4.75%
銘柄数		93

- ※1 格付は、ムーディーズ、S&Pのうち、上位の格付を採用しております。以下同じです。また平均格付とは、各マザーファンドが組み入れている債券にかかる格付を加重平均したものであり、当ファンドにかかる格付ではありません。
- ※2 「デュレーション」=債券投資におけるリスク度合いを表す指標の一つで、金利変動に対する債券価格の反応の大きさ(リスクの大きさ)を表し、デュレーションが長いほど債券価格の反応は大きくなります。
- ※3 「最終利回り」=満期までの保有を前提とすると、債券の購入日から償還日までに入ってくる受取利息や償還差損益(額面と購入価額の差)等の合計額が投資元本に対して1年当たりどれくらいになるかを表す指標です。
- ※4 債券は、一般的に償還までの期間が長いほど不確実性が高まるため利回りが高い傾向にあります(順イールド)。そのため、時間が経過し償還までの期間が短くなるとともに利回りが下がり、債券価格が上昇する現象が起きます。これが「ロールダウン効果」と呼ばれるものです。ロールダウン効果(推計値)は、ブルームバーグ米国社債トータルリターン・インデックス、ブルームバーグ汎欧州総合社債トータルリターン・インデックスに作成基準日時点における各マザーファンドの組入比率で投資したとの仮定のもとに当社が算出した推計値であり、実際の債券価格や当ファンドの取引を示したものではありません。ファンドの運用成果を示唆・保証するものではありません。また、売買時の手数料や税金等は考慮していません。市場が予期しない値動きをした場合等には、ロールダウン効果がパフォーマンスの悪化要因になることがあります。イールドカーブは、右肩下がり(逆イールド)となることがあり、その場合、ロールダウン効果は得られず時間の経過とともに債券価格が下落し、値下がり損が発生します。ブルームバーグ各種インデックスはブルームバーグが公表しているインデックスです。ブルームバーグは、ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーの商標およびサービスマークです。ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーおよびその関係会社(以下「ブルームバーグ」と総称します)またはブルームバーグのライセンサーは、ブルームバーグ・インデックスに対する一切の独占的権利を有しています。

【ご参考】ロールダウン効果

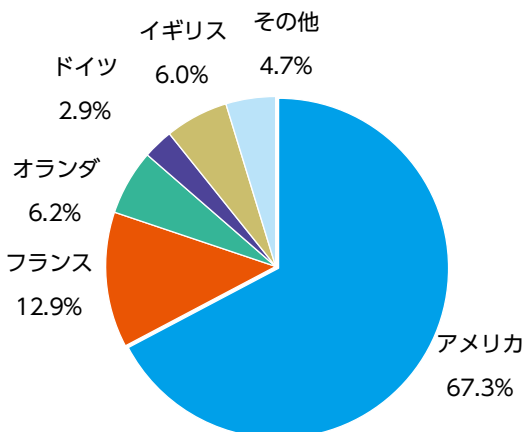
ロールダウン効果 (推計値)	※4	0.38%
----------------	----	-------

格付分布



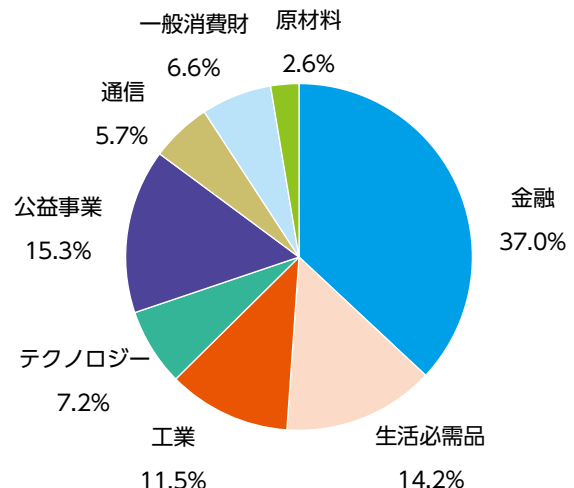
※対組入債券評価額比

国・地域別構成比率



※国・地域はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。
※対組入債券評価額比

業種別構成比率



※業種はブルームバーグ業種分類 (BICS) によるものです。
※対組入債券評価額比

マザーファンドの組入上位銘柄

組入上位5銘柄（ニッセイSDGs北米クレジットマザーファンド）

順位	銘柄	比率	償還日	関連するSDGs(*)
			クーポン格付	SDGs達成に関連した安定的なキャッシュフロー創出の取り組み
1	ハズブロ	4.2%	2034/05/14	4
			6.050%	グローバルなブランドを有する米国の玩具メーカー。1500種類に上るキャラクター玩具を製造販売、ディズニーなどの外部のコンテンツ保有会社との提携商品も手がける。就学前教育にかかる製品提供を通じた幼児向けの教育機会拡大への貢献が、安定したキャッシュフロー創出に寄与すると期待。
			BBB	
2	キルロイ・リアルティ	4.1%	2036/01/15	9
			6.250%	米国の西海岸を拠点とした不動産投資信託会社。太陽光などの再生可能エネルギーによる発電施設を備えた環境負荷の小さい建物の開発を通じた炭素排出量削減への貢献が、安定したキャッシュフロー創出につながると見込む。
			BBB-	
3	CVSヘルス	4.0%	2035/07/20	3
			4.875%	米国最大手のドラッグストアチェーン。南米一部地域を含め9,900店舗以上を展開。医薬品小売を通じたプライマリーケア（一次診療）の提供のみならず、保険・医療機器、サービス情報へのアクセスの確保により精神衛生を含む健康福祉の促進への貢献が、安定したキャッシュフロー創出を支える見通し。
			BBB	
4	パークシャー・ハサウェイ・エナジー	4.0%	2028/04/15	7
			3.250%	電力会社を複数保有する持ち株会社で米国を中心に総合電力事業を展開。風力や太陽光などの再生可能エネルギーを活用した発電を通じた炭素排出量削減への貢献により、安定したキャッシュフロー創出が実現されると期待。
			A-	
5	ファイサーブ	3.9%	2029/07/01	8
			3.500%	金融機関向けの決済取引処理事業を手がける世界トップクラスのプロバイダー。デジタルバンキングなど金融サービスソリューションを提供。銀行業務と取引処理の重要な部分を担い、人々の金融サービスへのアクセス促進に貢献することで、キャッシュフロー創出力が高まると期待できる。
			BBB	

(*) 関連するSDGsについては7頁をご覧ください。

※マザーファンドにおける対組入債券評価額比

※上記の各銘柄における取り組み内容及び業績予想等は、ファンドに関する参考データを提供する目的で作成したもので、作成基準日における当社の判断であり、特定の株式銘柄を推奨するものではありません。また、将来の運用成果等を予想および保証するものではありません。

組入上位5銘柄（ニッセイSDGs欧州クレジットマザーファンド）

順位	銘柄	比率	償還日	関連するSDGs(*)
			クーポン格付	SDGs達成に関連した安定的なキャッシュフロー創出の取り組み
1	ソシエテ・ジェネラル	4.6%	2030/11/13	1,5,7,8,9,11,12,13
			3.625%	フランス4大銀行の一角で、銀行、証券、カード、富裕層向け運用管理などの総合金融サービスを展開。エネルギーセクターへの融資エクスポージャー（ポートフォリオのリスク量）削減や、融資先に対する温暖化ガス（GHG）排出量削減目標の設定を通じた炭素排出量削減への貢献により、安定したキャッシュフロー創出が見込まれる。
			BBB	
2	ボーダフォン・グループ	4.3%	2030/11/24	9,11
			1.625%	イギリスを拠点とするモバイルおよびブロードバンド通信事業者、ドイツをはじめ多くの国・地域で事業を展開。ネットワークインフラへの投資を継続し、新興国における高品質な通信サービスの提供により持続可能なインフラ開発、アクセス網の提供に貢献することで安定したキャッシュフロー創出を支えると見込む。
			BBB	
3	サンゴバン	4.1%	2031/03/15	7,9,11
			1.875%	グローバルな建築用資材メーカー、世界70カ国で事業を展開。断熱材やガラス製品は、建物のエネルギー消費量を削減し、新興国におけるインフラ設備を含めた持続可能な都市づくり、環境問題の解決に貢献することで、中期的なキャッシュフロー創出力を維持できると見込む。
			BBB+	
4	テリア	3.9%	2034/02/20	7,9,11
			2.125%	スウェーデン最大の通信事業者。個人および法人顧客に対してモバイルを含む通信ソリューションを提供。北欧地域において信頼性とエネルギー効率に優れた光ファイバーネットワークを展開し、アクセス網の構築、エネルギー効率の改善に貢献することが安定したキャッシュフロー創出につながる見通し。
			BBB+	
5	ナショナル・グリッド	3.8%	2035/01/16	7,9,12,13
			4.275%	イギリスに拠点を置く公益企業で、電力の送配電やガスの供給網を保有・運営する。風力発電や太陽光発電といったクリーンエネルギーの送電網を構築することによる、環境問題解決および産業基盤維持への貢献が安定したキャッシュフロー創出を支える見通し。
			BBB	

(*) 関連するSDGsについては7頁をご覧ください。

※マザーファンドにおける対組入債券評価額比

※上記の各銘柄における取り組み内容及び業績予想等は、ファンドに関する参考データを提供するため作成したもので、作成基準日における当社の判断であり、特定の株式銘柄を推奨するものではありません。また、将来の運用成果等を予想および保証するものではありません。

「SDGs(エスディーゼーズ：Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標)」とは2015年9月の国連サミットで採択された、持続可能な世界を実現するための2030年を期限とする国際目標です。経済・社会・環境の調和のとれた持続的な発展をめざし、包括的な17の目標が設けられています。

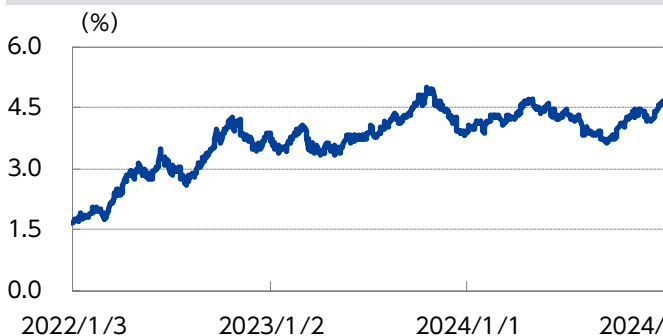
SDGs 17の目標



当資料におけるSDGsロゴ・アイコンは、情報提供目的で使用しています。国際連合が当ファンドの運用等についていかなる責任も負うものではなく、また支持を表明するものではありません。

マーケットの状況

米国金利（10年国債）の推移（直近3年間）



※ブルームバーグのデータをもとに、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。

ドイツ金利（10年国債）の推移（直近3年間）

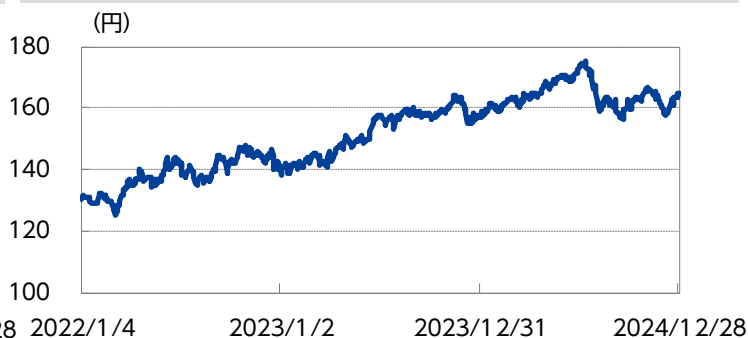


為替（米ドル・円レート）の推移（直近3年間）



※対顧客電信売相場仲値のデータをもとに、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。

為替（ユーロ・円レート）の推移（直近3年間）



当月の市況動向

当月の米長期金利は前月から大幅に上昇しました。上旬は11月の米雇用統計で失業率が市場予想よりも上昇したことで、当月の米連邦公開市場委員会（FOMC）での追加利下げ観測が強まり、米金利は小幅に低下しました。中旬はFOMC参加者の経済見通し（SEP）が上方修正される可能性や国債入札が意識され、米金利は上昇に転じました。FOMCでは3会合連続の利下げが決定されましたが、2025年の利下げペースの鈍化が示唆されたほか、ドット・チャートで示されるFOMC参加者の政策金利見通しでは2025年の利下げ回数が2回に留まったことを受け、米金利は大幅に上昇しました。下旬にはクリスマス休暇を控え、市場が閑散とする中でも米金利は上昇基調で推移しました。米長期金利は月末時点で4.57%となりました。

当月の欧州（独）長期金利は前月から上昇しました。上旬はフランスで内閣不信任決議案が可決されたほか、ドイツでは連邦議会で首相信任案が否決され解散総選挙が正式に実施される予定となるなど、ユーロ圏の政治不安が高まったものの、欧州金利は横ばいで推移しました。中旬は当月の欧州中央銀行（ECB）理事会で政策金利の0.25%の引き下げが決定されましたが、記者会見でラガルドECB総裁のサービス価格の高止まりに配慮を示す発言がなされると、市場の利下げ観測が後退したことで欧州金利は上昇しました。下旬は米国のFOMCで2025年の利下げペースの鈍化が示唆されたことを受けて米金利が上昇し、欧州金利もさらに上昇しました。欧州（独）長期金利は月末時点で2.37%となりました。

当月の米ドル・円相場は前月から上昇しました。上旬は「日銀が当月の金融政策決定会合で利上げを見送る可能性」が報道されたことで、ドル・円は上昇しました。中旬のFOMCでは3会合連続の利下げが決定されましたが、今後の利下げペースが減速する可能性が示唆されました。加えて、日銀の金融政策決定会合で追加利上げが見送られ、会合後の記者会見では植田総裁が利上げの判断に慎重な姿勢を示しました。これらを受けて、日米の政策金利差が高位な状態が続くとの思惑からドル・円は急速に上昇しました。下旬には政府高官が円安をけん制する発言をしたことで、急速な動きに歯止めがかかりました。月末時点では158.18円（東京市場）と前月末比7.44円のドル高・円安となりました。

当月のユーロ・円相場は前月から上昇しました。上旬は「日銀が当月の金融政策決定会合で利上げを見送る可能性」が報道されたことで、ユーロ・円は上昇しました。中旬は当月のECB理事会で政策金利の0.25%の引き下げが決定されたものの、記者会見でラガルドECB総裁のサービス価格の高止まりに配慮を示す発言がなされると、市場の利下げ観測が後退しました。加えて、日銀の金融政策決定会合で追加利上げを見送られ、会合後の記者会見では植田総裁が利上げの判断に慎重な姿勢を示しました。これらを受けて、日欧の政策金利差が高位な状態が続くとの思惑からユーロ・円は急速に上昇しました。下旬には政府高官が円安をけん制する発言をしたことで、急速な動きに歯止めがかかりました。月末時点では164.92円（東京市場）と前月末比5.72円のユーロ高・円安となりました。

当月の米国社債スプレッド（国債に対する上乗せ金利）は小幅に拡大しました。米連邦準備制度理事会（FRB）による今後の利下げペースが鈍化するとの見方から、企業の調達コスト高止まりに対する懸念が高まり、スプレッドは月末にかけて拡大基調で推移しました。

当月の欧州社債スプレッドは縮小しました。フランスの2025年度予算案を巡る不確実性が後退し、政治的混乱が企業活動の停滞を招くとの懸念が緩和したことなどから、スプレッドは縮小基調で推移しました。

ファンドの状況

当月についても、主に北米・欧州の企業が発行する投資適格社債のうち、SDGs（エスディーゼーズ：Sustainable Development Goals＝持続可能な開発目標）評価、ESG（環境・社会・ガバナンス）評価がともに高い銘柄を選定しました。

当月末の基準価額は為替ヘッジありが8,104円となり、前月末比-148円（月間騰落率-1.79%）、為替ヘッジなしが12,459円となり、前月末比+363円（月間騰落率+3.00%）となりました。

組入マザーファンドの基準価額について、北米クレジットマザーファンド、欧州クレジットマザーファンドともに、保有している社債の利回りは前月末比で上昇（債券価格は下落）したものの、為替が円安になったため上昇しました。

なお、「為替ヘッジあり」では、為替ヘッジコストがマイナスに働きました。

今回は保有銘柄の一つであるキルロイ・リアルティをご紹介します。同社は米国の西海岸を拠点とした不動産投資信託会社で、オフィス向け物件の開発、運営を手がけています。太陽光などの再生可能エネルギーによる発電施設を備えた環境負荷の小さい建物の開発を通じた炭素排出量削減への貢献が、安定したキャッシュフロー創出につながると見込んでいます。

SDGsの観点では、以下の目標等に貢献すると考えます。

「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」

今後の見通しと運用方針

米国経済は、11月の消費者物価指数（CPI）、生産者物価指数（PPI）がともに前月比で伸びが加速しており、インフレ圧力の再燃が懸念されています。12月の雇用統計は、市場予想に反して失業率が改善し、雇用市場は堅調であることが確認されています。12月の米サプライマネジメント協会（ISM）景況感指数については、製造業指数は経済活動の拡張の節目である50を引き続き下回っているものの、前月比では改善傾向にあり、非製造業指数については節目の50を上回る水準を維持しており、経済活動は底堅く推移していることが示唆されています。11月のインフレ調整後個人消費支出（PCE）は前月比で増加しており、個人消費の堅調さが確認されています。主要な経済指標は堅調であるため、米国経済は底堅く推移すると考えています。

米国金利は、中長期的にはFRBによる利下げの進展に伴い、低下していくと見込んでいます。ただし、トランプ次期米大統領の政策に対する不透明感や、当月のFOMCで修正された政策金利見通しでは2025年の利下げ回数が見通しが半減したことなどから、短期的には高い水準に留まる可能性もあると見ています。

米国社債のспレッドは、主要な米経済指標が底堅さを見せ、米国経済や企業業績への過度な懸念は後退している一方で、спレッドは既に過去対比で低位な水準にあり、高水準にある金利環境が企業の負債調達コストを上昇させ信用力の改善を制限すると想定されることから、緩やかな拡大方向での推移になると考えています。

欧州経済は、12月のユーロ圏消費者物価指数（HICP）上昇率が前年同月比+2.4%と加速し、ECBが目標とするインフレ率+2%をやや上回る水準となっており、インフレ圧力は落ち着きつつあるものの一定の根強さを見せています。11月のユーロ圏失業率は6.3%と歴史的な低水準を維持しており、雇用市場の底堅さが確認されています。12月のユーロ圏購買担当者景気指数（PMI）については、製造業は引き続き経済活動の拡張の節目である50を下回る水準となっているものの、サービス業については50を上回る水準まで改善し、総合PMIは50をわずかに下回る水準となっています。経済活動は縮小方向であるものの、急激な悪化は示唆されていません。ECBは景気抑制的な金融政策から転換し、段階的に利下げを進めているものの、ドイツとフランスを中心に政治が不安定化していることから、欧州経済がさらに減速する可能性もあると見ています。

欧州金利は、ECBが利下げを継続する方針であることに加え、ラガルドECB総裁が2025年内にインフレ率が目標水準達成を見込むと発言をしており、景気抑制的な環境は長期化しない公算が大きいことから低下基調で推移すると考えています。

欧州社債のспレッドは、ECBによる利下げが欧州経済および企業活動を一定程度下支えすると期待される一方、欧州各国の政治の不安定化やトランプ次期米大統領の政策に対する不透明感を受け、横ばい圏で推移すると考えています。

弊社における「ESGファンド」の考え方について

ニッセイアセットマネジメント株式会社（以下「弊社」といいます）は、ファンドの設定目的や運用方針等をもとに、弊社が設定・運用する公募投資信託において「ESGファンド」と位置付けるファンドを分類しています。

本書のファンドは、「ESGファンド」に該当いたします。

以下に弊社における「ESGファンド」の考え方をご説明いたします。

●ESG運用とは

まず、ESGとは、Environment（環境）、Social（社会）、Governance（ガバナンス）の頭文字をとった言葉で、ESG運用とはこれらの要素を投資判断に加味する運用のことをいいます。ESG運用については、持続可能な社会および国際金融システムの実現をめざすために、2006年に国連が中心となり提唱した責任投資原則（PRI:Principles for Responsible Investment）をきっかけとして広まっている考え方です。

●弊社の「ESGファンド」の考え方について

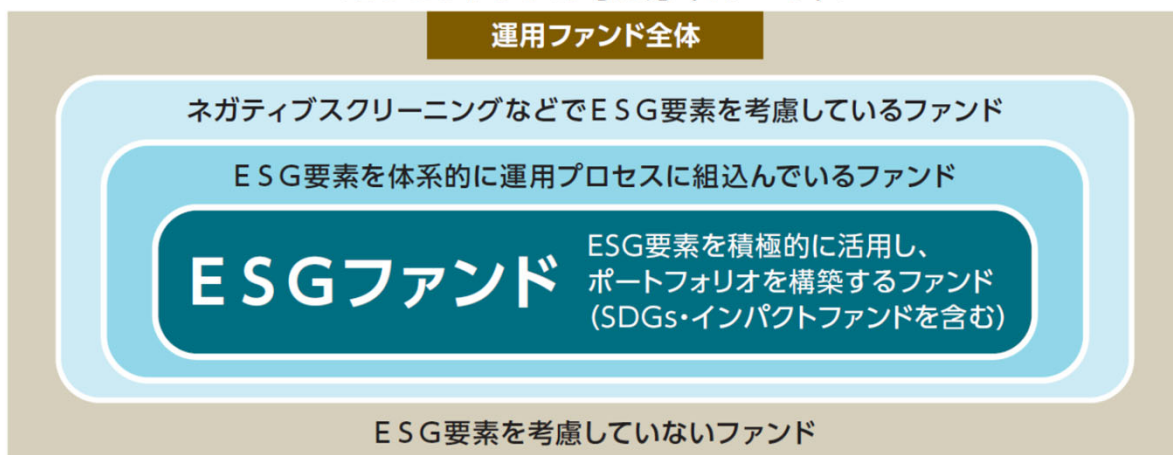
弊社ではESG要素を積極的に活用し、ポートフォリオを構築するファンドを「ESGファンド」としています。「アクティブファンド」において、ESG要素を積極的に活用する運用とは、相対的にESG評価の高い銘柄を選別したり、ESGの観点でインパクト創出可能な銘柄を選別したりする運用のことをいいます*1。運用ファンド全体のなかでESGファンド以外の区分としては、ESG要素を体系的に運用プロセスに組み込んでいるファンド、ネガティブスクリーニング*2などでESG要素を考慮しているファンド、およびESG要素を考慮していないファンドがあります。なお、ESGファンドのなかで、特にSDGs*3のゴール達成という観点においても優れた投資銘柄でポートフォリオを構築するファンドを「SDGsファンド」、また環境や社会へのインパクト創出も企図し、その効果をレポーティングするファンドを「インパクトファンド」としています。

※1 「インデックスファンド」においては、ESG要素を積極的に活用して構成されていると弊社が考える指数に連動するファンドをESGファンドとしています。

※2 ESGの観点から特定の銘柄等を投資対象から除外することをいいます。

※3 Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）のことです。2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界をめざす国際目標です。

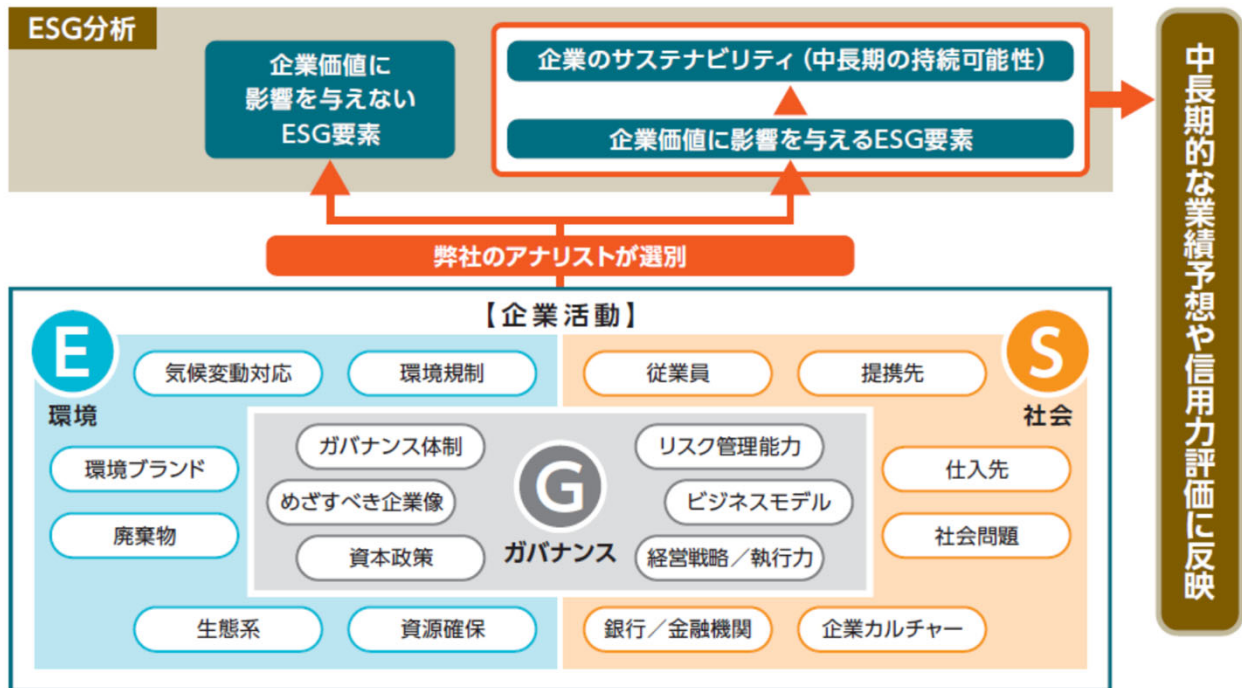
< ESGファンドの考え方（イメージ） >



●弊社のESGに対する考え方について

弊社では、ESGは企業のあらゆる活動に影響を与える要素であると考えており、企業のESGに関する取組みを分析することで、企業のサステナビリティ(中長期的な持続可能性)や中長期的な企業像を把握することができると考えています。また、一般にESGの観点で優れた取組みを行い、ステークホルダー(企業のあらゆる利害関係者)との持続的な関係を構築できる企業は、中長期的に持続的な成長基盤を有していると考えられます。弊社では、アナリストが、ESG要素のなかで企業価値に影響を与えるものを企業毎に選別しながらサステナビリティの評価(ESGレーティング(詳細は後述)*の付与)を行います。その評価を中長期的な業績予想や信用力評価に反映させ、投資判断の土台として活用しています。

<企業活動と弊社のESG評価(イメージ)>



※弊社の「ESGレーティング」について

弊社のESG評価は、企業のESGに関する取組みが中長期の企業価値に「ポジティブか」「中立か」「ネガティブか」の原則3段階とし、1～3のESGレーティングを付与しています(レーティング1が高評価)。ただし、ESGの取組みを通じて企業価値の大きな棄損が懸念されるものの、時価総額が大きい等の理由で投資ユニバースとして継続する企業には、レーティング4を付与することがあります。

なお、企業のESGレーティングの付与においては、グローバルに共通のプラットフォームを用いながら資産横断的に独自の評価を実施しています。

<ESGレーティングの内容>

レーティング	内 容
1	企業のESGに関する取組みが企業価値にポジティブ
2	企業のESGに関する取組みが企業価値に中立
3	企業のESGに関する取組みが企業価値にネガティブ
4	企業のESGに関する取組みが企業価値に大きくネガティブ
付与なし	流動性や信用リスク等の観点から原則アクティブ運用の投資ユニバース外

なお、第三者の運用会社に運用の委託等を行う外部運用におけるESGに対する考え方やESGレーティングの付与手法などについては、上述の限りではありません。

以上

弊社のESGファンドの考え方等は、今後のESGを取り巻く情勢等に応じ見直す場合があります。

運用プロセスイメージ

北米・欧州企業が発行する
投資適格社債(BBB格相当以上)

投資候補銘柄群

ポートフォリオ

①投資候補銘柄の抽出

- 投資対象は、北米企業・欧州企業が発行する投資適格社債
- SDGsに関連する事業売上構成比と収益貢献度等が高い発行体を抽出

②発行体企業の調査・分析

- 信用リスクの評価
- ESG評価を重視
 - ・ 徹底した調査・分析により、ESGの各要素が企業価値の向上に寄与しているかを見極め
 - ・ 原則としてESGレーティングが相対的に高い銘柄(レーティング2以上)に投資

③投資銘柄・ウェイトの決定

- 各銘柄の割安度・リスク等を考慮し、投資銘柄・投資ウェイトを決定

・ファンドは日本生命グループの海外拠点から提供される助言を活用し、ニッセイアセットマネジメント株式会社が運用を行います。

・上記運用プロセスは、今後変更となる場合があります。

<ご参考> マザーファンドにおけるESG関連データ

上記の『弊社における「ESGファンド」の考え方』を踏まえ、マザーファンドにおけるESG関連データにつきまして、以下の通り開示いたします。

当運用では、徹底した調査・分析により、ESGの各要素が企業価値の向上に寄与しているかを見極め、ESGに対する取組みに優れ、持続的な企業価値の向上が期待される銘柄を抽出し、ESGレーティングが3以下の銘柄は排除しています。ただし、リスクコントロールや売買タイミング等の観点から、一部上記以外の企業を投資対象とする場合があります。

<北米クレジットマザーファンド> 組入銘柄のESGレーティング（2024年11月末時点）

区分	比率
レーティング1(最高位)	53.2%
レーティング2	46.8%
レーティング3	—
レーティング4	—
レーティングなし	—

※各銘柄のESGの取組みに対する当社のESG評価を記載しています。
※マザーファンドにおける対組入債券評価額比

<欧州クレジットマザーファンド> 組入銘柄のESGレーティング（2024年11月末時点）

区分	比率
レーティング1(最高位)	53.6%
レーティング2	46.4%
レーティング3	—
レーティング4	—
レーティングなし	—

※各銘柄のESGの取組みに対する当社のESG評価を記載しています。
※マザーファンドにおける対組入債券評価額比

ファンドの特色

- ①主に北米・欧州の企業が発行する社債に投資します。
- ②SDGs達成に関連した事業を展開する企業が発行する社債のなかから投資銘柄を選定します。

「SDGs(エスディー・ジー・ズ：Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標)」とは2015年9月の国連サミットで採択された、持続可能な世界を実現するための2030年を期限とする国際目標です。経済・社会・環境の調和のとれた持続的な発展をめざし、包括的な17の目標が設けられています。

- ③「為替ヘッジあり」と「為替ヘッジなし」の2つのファンドから選択いただけます。
※為替ヘッジとは、為替変動による資産価値の変動を回避する取引のことをいいます。
- ④年1回決算を行います。信託財産の十分な成長に資することに配慮し、分配を抑制する方針です。

投資リスク

※ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

基準価額の変動要因

- ファンド（マザーファンドを含みます）は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本を割込むことがあります。
- ファンドは、預貯金とは異なり、投資元本および利回りの保証はありません。運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のものとなりますので、ファンドのリスクを十分にご認識ください。**

主な変動要因

債券・劣後債投資リスク	金利変動 リスク	金利は、景気や経済の状況等の影響を受け変動し、それにともない債券や劣後債の価格も変動します。一般に金利が上昇した場合には、価格が下落します。
	信用 リスク	債券や劣後債の発行体が財政難・経営不振、資金繰り悪化等に陥り、利息や償還金をあらかじめ定められた条件で支払うことができなくなる場合（債務不履行）、またはそれが予想される場合、価格が下落することがあります。
	劣後債固有 のリスク	<ul style="list-style-type: none"> ・一般に劣後債には、繰上償還条項が付与されており、繰上償還の実施は発行体が決定することとなっています。繰上償還日に償還されることを前提として取引されている劣後債は、予定期日に償還されない場合、または繰上償還を行わないと予想される場合には、価格が下落することがあります。 ・一般に劣後債は、法的な弁済順位は普通株式に優先し普通社債より劣後します。そのため、発行体が破綻等に陥った場合、他の優先する債権が全額支払われない限り、劣後債は元利金の支払いを受けることができません。 また、劣後債は、一般に同一発行体の普通社債と比較して低い格付が信用格付業者から付与されています。そのため、発行体の信用力が低下した場合、普通社債以上に価格が大きく下落することがあります。 ・一般に劣後債は、利息または配当の支払繰延条項が付与されており、発行体の業績や財務状況等が悪化した場合、利息または配当の支払いが停止・繰延べされることがあります。 ・劣後債に関する制度の変更（税制改正、市場規制等）があった場合、価格が下落することがあります。
為替変動 リスク	<p>〈為替ヘッジあり〉</p> <p>外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減を図ります。ただし、為替ヘッジを完全に行うことができないとは限らないため、外貨の為替変動の影響を受ける場合があります。また、円の金利が為替ヘッジを行う当該外貨の金利より低い場合などには、ヘッジコストが発生することがあります。</p> <p>〈為替ヘッジなし〉</p> <p>外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行わないため、為替変動の影響を直接的に受けます。一般に円高局面ではファンドの資産価値が減少します。</p>	
カントリー リスク	外国の資産に投資するため、各国の政治・経済情勢、外国為替規制、資本規制等による影響を受け、ファンドの資産価値が減少する可能性があります。	
流動性 リスク	市場規模が小さいまたは取引量が少ない場合、市場実勢から予期される時期または価格で取引が行えず、損失を被る可能性があります。	

⚠ 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

- ファンドのESG運用に関しては、以下の制約要因やリスクにご留意ください。

ファンドは委託会社によるESG評価が相対的に高い銘柄でポートフォリオを構築しているため、ポートフォリオの特性が偏ることがあります。このため、基準価額の値動きがファンドの主要投資対象市場全体の値動きと比較して大きくなる可能性、相場動向によっては基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性などがあります。

分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの信託財産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 受益者のファンドの購入価額によっては、支払われる分配金の一部または全部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

- ファンドは、多量の換金の申込みが発生し換金代金を短期間で手当てする必要がある場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等には、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引ができないリスク、取引量が限定されるリスク等が顕在します。

これらにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金の申込みの受付けを中止する、また既に受付けた換金の申込みの受付けを取消しする可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性などがあります。

手続・手数料等

※基準価額は便宜上1万口当りに換算した価額で表示されます。

お申込みメモ

購入時	購入単位	販売会社が定める単位とします。
	購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金時	換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差引いた額とします。
	換金代金	換金申込受付日から起算して、原則として5営業日目からお支払いします。
申込について	申込締切時間	原則として毎営業日の午後3時30分までに販売会社の手続きが完了したものを当日受付分とします。ただし、申込締切時間は販売会社によって異なる場合がありますので、詳しくは販売会社にご確認ください。
	申込不可日	ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行、ロンドン証券取引所、ロンドンの銀行のいずれかの休業日と同日の場合は、購入・換金・スイッチングの申込みの受付を行いません。
	購入・換金 申込受付の中止 および取消し	金融商品取引所の取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときには、購入・換金・スイッチングの申込みの受付を中止すること、および既に受付けた購入・換金・スイッチングの申込みの受付を取消すことがあります。
決算・ 分配	決算日	3月15日（該当日が休業日の場合は翌営業日）
	収益分配	年1回の毎決算日に、収益分配方針に基づき収益分配を行います。
その他	信託期間	2044年3月15日まで（設定日：2021年12月20日）
	繰上償還	委託会社はあらかじめ受益者に書面により通知する等の手続きを経て、ファンドを繰上償還させることがあります。
	課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA（少額投資非課税制度）の対象となり、いずれのファンドも、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象となります。ただし、販売会社により取扱いが異なる場合があります。 詳しくは、販売会社にお問合せください。
	スイッチング	「為替ヘッジあり」と「為替ヘッジなし」との間でスイッチングが可能です。スイッチングの際には、購入時と同様に販売会社が定める購入時手数料がかかる場合があります。また、換金時と同様に信託財産留保額・税金がかかる場合があります。 ※販売会社によっては、どちらか一方のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングの取扱いを行わない場合があります。詳しくは販売会社にお問合せください。

❗ ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
購入時	購入時手数料	購入申込受付日の翌営業日の基準価額に 2.2%（税抜2.0%） を上限として販売会社が独自に定める率をかけた額とします。 ※料率は変更となる場合があります。詳しくは販売会社にお問合せください。
換金時	信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に 0.05% をかけた額とします。
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
毎日	運用管理費用（信託報酬）	ファンドの純資産総額に 年率0.913%（税抜0.83%） をかけた額とし、ファンドからご負担いただきます。
	監査費用	ファンドの純資産総額に年率0.011%（税抜0.01%）をかけた額を上限とし、ファンドからご負担いただけます。
随時	その他の費用・手数料	組入る有価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用および借入金の利息等はファンドからご負担いただけます。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を記載することはできません。 また、ファンドが「ニッセイSDGs北米クレジットマザーファンド」や「ニッセイSDGs欧州クレジットマザーファンド」を換金する際には、信託財産留保額*をファンドからご負担いただけます。 ※「ニッセイSDGs北米クレジットマザーファンド」「ニッセイSDGs欧州クレジットマザーファンド」の基準価額に0.05%をかけた額。 なお、投資者が実質的に負担する信託財産留保額は、前記「投資者が直接的に負担する費用」に記載の信託財産留保額となります。

- ❗ 当該費用の合計額、その上限額および計算方法は、運用状況および受益者の保有期間等により異なるため、事前に記載することはできません。
- ❗ 詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

税金

分配時の普通分配金、換金（解約）時および償還時の差益（譲渡益）に対して、所得税および地方税がかかります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

- ・少額投資非課税制度（愛称：NISA（ニーサ））は少額上場株式等に関する非課税制度であり、NISAをご利用の場合、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たしたファンドを購入するなど、一定の条件に該当する方となります。詳しくは、販売会社にお問合せください。
- ・外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が投資信託説明書（交付目論見書）の記載と異なる場合があります。
- ・法人の場合は上記とは異なります。
- ・税金の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社【ファンドの運用の指図を行います】	ファンドに関するお問合せ先
ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者登録番号 関東財務局長（金商）第369号 加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会	ニッセイアセットマネジメント株式会社 コールセンター 0120-762-506 9:00～17:00（土日祝日・年末年始を除く）
受託会社【ファンドの財産の保管および管理を行います】	ホームページ https://www.nam.co.jp/
三菱UFJ信託銀行株式会社	

ご留意いただきたい事項

- ①投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動し、運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のもとなります。投資元本および利回りが保証された商品ではありません。
- ②当資料はニッセイアセットマネジメントが作成したものです。ご購入に際しては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等（目論見書補完書面を含む）の内容を十分にお読みになり、ご自身でご判断ください。
- ③投資信託は、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金による支払いの対象にはなりません。
- ④投資信託のお取引に関しては、クーリング・オフ（金融商品取引法第37条の6の規定）の適用はありません。
- ⑤当資料のいかなる内容も将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。また、資金動向、市況動向等によっては方針通りの運用ができない場合があります。
- ⑥当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- ⑦当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- ⑧当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- ⑨当資料の内容は原則作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

取扱販売会社一覧

※販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によっては、新規のお申込みを停止している場合もあります。

詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問合せください。

取扱販売会社名	金融商品 取引業者	登録金融 機関	登録番号	日本証券業 協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融 商品取引業 協会
九州FG証券株式会社	○		九州財務局長(金商)第18号	○			
浜銀TT証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第1977号	○			
株式会社鹿児島銀行（委託金融商品取引業者 九州FG証券株式会社）		○	九州財務局長(登金)第2号	○			
株式会社千葉銀行		○	関東財務局長(登金)第39号	○		○	
株式会社肥後銀行（委託金融商品取引業者 九州FG証券株式会社）		○	九州財務局長(登金)第3号	○			